

令和8（2026）年3月24日（火）
理事会承認（評議員会意見事前聴取済み）



学校法人跡見学園

ATOMI GAKUEN

中期計画ATOMI PLAN 2030（変更版） （変更後対象期間：令和8（2026）年度～令和11（2030）年度）

※ATOMI PLAN 2030は令和7（2025）年度から開始している。

中期計画：ATOMI PLAN 2030

ミッション

豊かな教養と高い人格をもち、時代の要請に応える女性を育成し、もって社会に貢献する

ビジョン

【夢を実現するフィールドを提供する】

- ・生徒・学生に対して時代の要請に応えた最適な教育を提供する。
- ・キャリア教育を推進し、自信と魅力ある女性を育成する。
- ・財政基盤を強化し、より安定した学園の経営体制を確立する。
- ・学園の認知度を上げ、社会に求められる跡見ブランドを確立する。

女子大学・大学院

5年後の目標：第三の開学。文京キャンパスへ

教育の質的向上

組織再編

教育研究の充実

内部質保証

外部連携

キャリアデザイン

学生生活満足度の向上

高大連携

財務の健全化

安定的学生数の確保

外部資金導入施策

経営改革

ブランド価値向上

組織計画

人事計画

中学校高等学校

5年後の目標：少子化時代に積極的に選ばれる女子校であり続ける

教育の質的向上

教育体制・内容等の再構築

財務の健全化

安定的生徒数の確保

経営改革

組織計画

法人事務局

5年後の目標：時代の要請に応じた教育環境実現のサポート

施設設備の充実整備

文京キャンパス整備計画

新座キャンパス整備計画

総合計画

財務の健全化

中期財務計画

単年度資金計画

収入の多様化

寄付金計画

経営改革

戦略的広報活動

組織計画

人事制度

達成目標

<女子大学>

- ・学部学科再編の実現
- ・文京キャンパスへの一元化の実現（2029年度）
- ・入学定員充足率100%、収容定員充足率90%以上

<中学校高等学校>

- ・志願者数1,500名以上 入学者250名
- ・満足度90%以上（生徒アンケートによる）
- ・大学進学希望者の合格率100%

<法人事務局>

- ・経営資源を管理、運営するための財務基盤の確保
- ・文京キャンパスへの集約に向けた教育環境の整備
- ・戦略的広報活動による学園認知度と社会的評価の向上
- ・女子大学の収容定員規模に見合った組織改編と人事配置

ATOMI PLAN 2030 実施項目一覧

機関	4つの柱	カテゴリー	中期的な目標	機関	4つの柱	カテゴリー	中期的な目標
1.女子大学・大学院	1.教育の質的向上	1.組織再編	1.学部学科の再編 2.大学院教育の在り方の検討	3.法人事務局	2.施設設備の充実整備	1.文京キャンパス整備計画 2.新座キャンパス整備計画 3.総合計画	1.大学文京キャンパスメイン化構想の実現 2.中高リニューアル 3.中高ICT環境の整備・充実
		2.教育研究の充実	1.情報科学芸術センター（AISAC）の活用 2.学者本位の学びの実現 3.自己点検・評価における教員個人の教育・研究力の向上 4.国際交流活動支援の充実				1.大学新座キャンパス整備 2.安心・安全な環境の整備 3.大学ICT環境の整備・充実
		3.内部質保証	1.恒常的検証体制による内部質保証の改善・充実				1.中期財務計画 2.単年度資金計画 3.収入の多様化 4.寄付金計画
		4.外部連携	1.行政・企業連携等による地域交流活動の拡充・強化 2.社会人向け講座の整備		4.経営改革	1.戦略的広報活動 2.組織計画 3.人事制度	1.メディアとの関係強化による学園認知度等向上 2.大学リブランディングの積極的展開 3.リアルイベント（対面重視）による学園認知度等の向上
		5.キャリアデザイン	1.教職協働でのキャリア支援サポート体制の構築				1.ガバナンスの向上 2.組織改編
		6.学生生活満足度の向上	1.学生生活支援の充実 2.課外活動支援の充実				1.職員人事評価制度の安定した運用の維持 2.組織間交流の推進と教職協働 3.研修の充実 4.適正な人員配置の実現 5.人事諸制度の見直し
		7.高大連携	1.中高大の連携体制の拡大				
	3.財務の健全化	1.安定的学生数の確保	1.安定的学生数の確保・維持 2.跡見学園中学校高等学校からの入学者確保 3.高大連携の強化 4.卒業生との関係強化 5.退学者数の削減				
		2.外部資金導入施策	1.補助金の計画的獲得				
	4.経営改革	1.ブランド価値向上	1.卒業生の活躍を発信				
		2.組織計画	1.迅速に意思決定できる組織の構築 2.委員会など協議体の整理と機能の明文化				
		3.人事計画	1.組織的なFD・SD研修体制の構築 2.業務効率化の促進				
	2.中学校高等学校	1.教育の質的向上	1.教育体制・内容等の再構築		1.ICTの効果的活用 2.学力向上のための授業の実践 3.語学教育の充実 4.教員人材の確保 5.進学支援の充実 6.生活環境・生活指導支援の充実		
					3.財務の健全化	1.安定的生徒数の確保 1.入学定員の安定的確保	
		4.経営改革	1.組織計画		1.戦略的広報活動による生徒募集の強化 2.教職員の役割分担の見直しとその連携強化		

<女子大学・大学院> 課題：教育の質的向上

カテゴリー	中期的な目標	目標の説明 (取り組み内容)	達成指標
組織再編	学部学科の再編	令和8年4月 収容定員減開始（令和12年3月完成） 令和10年4月 学部学科再編（令和14年3月完成）	学部学科について、定員削減の上、再編案を立案する。
組織再編	大学院教育の在り方の検討	認証評価による指摘を踏まえ、社会のニーズを踏まえた在り方の検証を行う。	学部学科再編計画に基づいた大学院の将来像を立案する。
教育研究の充実	情報科学芸術センター（AISAC）の活用	大学の附属教育研究組織として情報科学芸術センターを設立し、独自に又は学部学科と連携して、教育研究及び社会発信を行う。	①学部学科と連携し、学内向けの講座・企画を実施する。 ②跡見中高や学外者を対象とする講座・企画を実施する。
教育研究の充実	学修者本位の学びの実現	認証評価による指摘を踏まえ、ポートフォリオ等を活用した検証システムを構築し、得られたデータを分析・検証することにより次の教育課程に反映させる。	学修ポートフォリオ等の検証結果・分析データを活用する。
教育研究の充実	自己点検・評価における教員個人の教育・研究力の向上	適切な実施によって改善を図り、教員の自己点検・評価や学生による授業評価結果を有機的に活用し、教育研究の活性化を図る。	教員の自己点検・評価や学生の授業評価の向上に資するFD等のさらなる活発化を図る。
教育研究の充実	国際交流活動支援の充実	在学留学制度の運用を具体的にを行う。 中長期留学先としての協定校数を拡充し、派遣学生数を増加させる。	①令和8年度秋学期以降在学留学制度を実質化する。 ②国際留学支援団体等を通じて留学先を拡充する。年間派遣学生数5名を目指す。

<女子大学・大学院> 課題：教育の質的向上

カテゴリー	中期的な目標	目標の説明 (取り組み内容)	達成指標
内部質保証	恒常的検証体制による内部質保証の改善・充実	内部質保証における、報告から改善までの体制を検証・整備し、実効性を高める。	アセスメント・ポリシーの有効活用計画を策定する。
外部連携	行政・企業連携等による地域交流活動の拡充・強化	各種外部関係先との連携を強化する。併せて、新規開拓を行い、協定先を増加させる。	①協定先との連携強化に努める。 ②学生の教育に資する連携事業を新規開拓し、3か所の新規協定締結を目指す。
外部連携	社会人向け講座の整備	文部科学省の定める社会人向け履修証明プログラム制度の導入に向けて基盤を整備する。	人材養成目的に応じて体系的に編成した教育プログラムを導入する。
キャリアデザイン	教職協働でのキャリア支援サポート体制の構築	正課授業と課外プログラムを連動させることにより、初年次からキャリア・デザイン力を向上させる。	①正課と課外プログラムを連動した認定プログラム制度を導入。修了者にはオープンバッジを付与する。 ②公務員講座や資格取得のための課外講座を開設する。
学生生活満足度の向上	学生生活支援の充実	学生に対する総合支援体制（ワンストップサービス）を構築し、「面倒見の良い大学」を実質化する。	学生対応窓口を一か所に集約し、職員の学生対応能力を向上させることにより総合支援体制を整備する。
学生生活満足度の向上	課外活動支援の充実	文京キャンパスへの修学地集約に伴い、課外クラブ活動を活性化させ、学生の帰属意識を高める。また、そのための支援体制を整える。	文京キャンパスでクラブ活動がスムーズに行える環境を整える。
高大連携	中高大の連携体制の拡大	学園内に限らず、多くの中学校・高等学校との教育活動の連携により社会貢献を行う。	高等学校への教員派遣および教育プログラムのを毎年30校以上実施する。

<女子大学・大学院> 課題：財務の健全化

カテゴリー	中期的な目標	目標の説明 (取り組み内容)	達成指標
安定的学生数の確保	安定的学生数の確保・維持	安定した学生数を確保するための施策を実施する。	入学定員充足率を100%とする。
安定的学生数の確保	跡見学園中学校高等学校からの入学者確保	入学前修得単位の認定制度を新設し、高校在学中に履修した本学の授業科目の単位を認定する。	入学者確保のため、単位認定制度を導入する。
安定的学生数の確保	高大連携の強化	高大連携のための協定を積極的に締結し、高校生に向けて大学での学びを体験をさせ、本学への入学意欲を喚起する。	新たに8校の高等学校と協定を締結する。
安定的学生数の確保	卒業生との関係強化	卒業生に対する入試広報などを活発化し、積極的な支援や協力を得られる体制を構築する。	校友子女推薦入試での入学者確保（毎年10名以上）
安定的学生数の確保	退学者数の削減	学生に対する総合支援体制（ワンストップサービス）を構築し、「面倒見の良い大学」を実質化する。	在籍者比2%の退学率を1%未満とする。
外部資金導入施策	補助金の計画的獲得	学生生徒等納付金以外の収入確保に向けて補助金獲得に努める。	私学事業団（改革総合支援事業）の得点を毎年10ポイントずつ増加させる。

<女子大学・大学院> 課題：経営改革

カテゴリー	中期的な目標	目標の説明 (取り組み内容)	達成指標
	卒業生の活躍を発信	卒業生の多様で魅力的なキャリア・パスを社会に発信する。	広報室が展開する大学YouTubeチャンネルや大学公式のInstagramで紹介してもらえる卒業生を発掘する。
組織計画	迅速に意思決定できる組織の構築	部局や職位に責任権限を付与することで、現場の意見や現状を反映した、柔軟で迅速な対応を可能にする。	決裁ルートの適正化
組織計画	委員会など協議体の整理と機能の明文化	委員会等の協議体を点検・整理し、組織のスリム化を図ることにより迅速な対応を可能にする。	各委員会、協議体の中で現状にそぐわないものについて整理統合する。
人事計画	組織的なFD・SD研修体制の構築	社会的なニーズ、時代の変化を汲み取る機会を増やし、教職員に求められる能力を向上させる。	SD:大学人として求められる職能を獲得するために内外の研修を活用する。
人事計画	業務効率化の促進	働き方改革を推進する	超過勤務時間の削減。有給休暇取得率の向上。

< 中学校高等学校 >

課題：教育の質的向上

カテゴリー	中期的な目標	目標の説明 (取り組み内容)	達成指標
教育体制・内容等の再構築	ICTの効果的活用	教員は、生徒のICT（生成AIを含む）による主体的な学び・協働学習の促進を図る。	生徒全員がスムーズにICTを使った探究活動を行うことができるかどうかを確認・評価する。
教育体制・内容等の再構築	学力向上のための授業の実践	学外者による授業診断の導入を活用した教科を中心とする教員の授業研究力向上及び生徒の学びを定着させるための自宅学習の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・設定した学外者による授業診断指標を超える。 ・GTZ（ベネッセ模試の指標）においてBランク以上を目指す。
教育体制・内容等の再構築	語学教育の充実	教員は、生徒の国語、英語による発信力、表現力の向上を図り、生徒の漢字検定・英語検定の合格率の向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の活動による達成指標の設定及び測定を行う。 ・漢字検定及び英語検定の資格取得率70%を達成する。
教育体制・内容等の再構築	教員人材の確保	採用説明会等を開催し、適性のある人材の採用を行い、次代、次々の学校運営が十分担えるような環境を整える。	<ul style="list-style-type: none"> ・適性のある人材の定義を明確化する。 ・育成方針及び手法を策定する。
教育体制・内容等の再構築	進学支援の充実	学校は高大連携を進めて、生徒の進路拡大を図る。本校に期待される進学実績を実現する。	<ul style="list-style-type: none"> ・希望進路の現役合格率100%を実現する。 ・高大連携の協定数を1校増やす。
教育体制・内容等の再構築	生活環境・生活指導支援の充実	ケヤキ棟の活用により、生徒の学習生活環境の向上を図る。また面談ブースの活用により、きめ細かい生活指導支援を行う。	ケヤキ棟の自習室の稼働率を80%以上とする。

< 中学校高等学校 >

課題：財務の健全化

カテゴリー	中期的な目標	目標の説明 (取り組み内容)	達成指標
安定的生徒数の確保	入学定員の安定的確保	新たな入試制度の導入・実施等を通じて、入学者250名を確保するとともに国語だけでなく理数系に強みのある生徒の獲得を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> ・入学者数250名の確保 ・新たな入試制度における受験者数（目標：従来の入試の受験者数）の増加

< 中学校高等学校 >

課題：経営改革

カテゴリー	中期的な目標	目標の説明 (取り組み内容)	達成指標
組織計画	戦略的広報活動による生徒募集の強化	広報素材の収集、マーケティング分析、SNS活用等戦略的な広報活動を展開して学校認知度を上げ、志願者数を1500名以上確保する。	<ul style="list-style-type: none"> ・志願者数1500名 ・広報活動の展開による達成指標（メディア露出や広報活動により得られる数値など）
組織計画	教職員の役割分担の見直しとその連携強化	教職員役割分担の明確化を通じ、適切な職員配置を得て、教員が教育活動に専念できる環境を実現し、適材の教員を広く確保できる状況を形成する。	年齢バランスのとれた次世代につながる教員配置

カテゴリー	中期的な目標	目標の説明 (取り組み内容)	達成指標
文京キャンパス整備計画	大学文京キャンパスメイン化構想の実現	<p>経営環境改善の一環として予定されている学部の文京集約および情報科学芸術センターとの連携を可能にするためのキャンパス整備を図る。</p> <p>事業の実施にあたっては、大学収容定員への影響、設置基準含めた中高への影響も考慮して計画を策定する。</p> <p>【具体的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 施設将来計画の策定。 ② 文科省、東京都への設置基準要件の確認。 ③ 設置基準要件と整合した基本設計、実施設計の作成。 ④ 設計に基づく施設のリニューアル。 	文京キャンパス施設リニューアルの完成
文京キャンパス整備計画	中高リニューアル	<p>150周年事業の一環として多目的棟（ケヤキ棟）を新築し、生徒募集の向上を図る。</p> <p>また、内装（主に床面）、給排水設備等、竣工時から未更新となっている箇所に関して、重要度の高いものの更新を行う。</p> <p>【具体的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① ケヤキ棟の建設 ② 竣工来未更新内装の更新 ③ 竣工来未更新設備の更新 	中高未更新設備等の更新完遂

カテゴリー	中期的な目標	目標の説明 (取り組み内容)	達成指標
文京キャンパス整備計画	中高ICT環境の整備・充実	<p>これまで無線LANや教室AV機器の整備を進めてきたが、利用に際して教員よりデバイスの連携や無線LANの信頼性向上といった改善点が寄せられている。これらの要望を踏まえ、教育環境の変化に迅速に対応し、より効果的で魅力的な学びの場を提供できるようICT環境の整備・充実を図る。</p> <p>無線LANについては令和元年度より順次導入したが更新時期（令和11年度予定）に合わせたネットワークおよび機器構成の見直しおよび再更新。</p> <p>教室AV機器については令和2年度より開始した導入の更新時期（令和10年度より予定）に合わせた機器構成の見直しおよび再更新。</p> <p>【具体的な取組】</p> <p>① 既設情報環境の更新</p>	中高ICT環境の整備の完遂
新座キャンパス整備計画	大学新座キャンパス整備	<p>【具体的な取組】</p> <p>① 施設将来計画の策定。</p> <p>② 文科省への設置基準要件の確認。</p> <p>③ 設置基準要件や建物の重要度に応じた実施計画の策定。</p> <p>④ 計画に基づく事業の実施。</p>	新座キャンパス整備計画の策定と計画の完遂

カテゴリー	中期的な目標	目標の説明 (取り組み内容)	達成指標
総合計画	安心・安全な環境の整備	<p>生徒・学生・教職員等にとって、より安全で安心な環境が提供できるよう整備を進める。</p> <p>耐震化計画に基づく令和10年度までの耐震化率100%達成、建物外装・内装の非構造材部分に関する安全対策の推進、建物外構における安全対策の実施</p> <p>【具体的な取組】</p> <p>① 耐震化率100%の達成</p> <p>② 非構造部材等、全般的な施設安全対策の遂行</p>	<p>① 耐震化率100%達成</p> <p>② 中高プール天井の軽量化</p> <p>③ 専門家による文京各建物の一斉点検の実施</p>
総合計画	大学ICT環境の整備・充実	<p>経営環境改善の一環として予定されている学部の文京キャンパス集約および学部・学科の再編を見据え、教育環境の変化に迅速に対応できる魅力的な学びの場を提供するため、令和11年度の集約化を目標としてICT環境およびICT機器の整備・再整備を行う。</p> <p>【具体的な取組】</p> <p>① 学部の文京集約を想定したICT環境の整備</p>	<p>学部の文京集約を考慮した大学ICT環境の整備の完遂</p>

カテゴリー	中期的な目標	目標の説明 (取り組み内容)	達成指標
中期財務計画	収支改善、財務基盤整備をめざす中期計画に基づく財務管理	設備投資計画を含め、戦略的な予算配分と経費節減を全学的に行い、また教職員の財務管理意識を高めつつ、今後5年で左記目標の実現をめざす。これにより財務基盤を強固にする。	①中期計画最終年度までに経常収支差額黒字化 ②5カ年連続教育研究経費比率30%超 ③規模に応じた適正な人件費比率を設定し、その実現を支援する。
単年度資金計画	合理的かつ効果的な資金計画の策定と実践	単年度の予算計画をコントロールできる様なPDCAサイクルを確立し、計画の適切な執行により、経常収支黒字の確保を実現する。	①単年度計画と予算のリンク ②経常収支黒字目標の達成 ③予算・実績管理体制の確立による財務状況の可視化
収入の多様化	学生生徒等納付金収入に過度に依存しない収益構造の確立	厳しい入試環境が予想される中、既存の学生生徒等納付金収入を中心とした収益構造から脱却し、収入の多様化を図る。これにより、あらゆる環境にも耐えうる財務体質を確立する。	①受取利息・配当金収入の増加（運用利回り最低限1%確保） ②その他、収支に貢献しうる収入の検討
寄付金計画	寄付金募集	寄付に対する理解を促進し、寄付形態の多様化等寄付しやすい環境を整える。跡見ブランドイメージとタイアップさせる。 【具体的な取り組み】 ①教育・研究への理解と促進 ②寄付形態の多様化	寄付毎の達成金額を年度ごとに設定し、1口の金額を少額にして寄付しやすい環境を作る。寄付毎の達成金額より1割増での寄付金の結果を出す

カテゴリー	中期的な目標	目標の説明 (取り組み内容)	達成指標
戦略的広報活動	メディアとの関係強化による学園認知度等向上	<p>メディアとの関係を強化し、大学・中高・学園の認知度・注目度を上げ、社会的評価の向上を図る。</p> <p>大学においては情報科学芸術センター設立、学部学科改組、文京校舎集約によるリブランディングを実現する。</p> <p>【具体的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間30本を超えるプレスリリースの発行。 ・HPやSNSによる時機を逸さない情報発信。 ・記者クラブ加盟社やリスト化した記者への情報提供。 	大学・中高・学園に関するテレビ、新聞、ネットメディアの露出を年間12本。
戦略的広報活動	大学リブランディングの積極的展開	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の高さなど大学の強みをアピールし、大学イメージの明確化・向上を図る。 ・受験生と保護者に訴求するSNS発信の強化で、大学の認知度・注目度を上げる。 <p>情報科学芸術センター設立、学部学科改組、文京校舎集約によるリブランディングを実現する。</p> <p>【具体的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時機を逸さない広報室発の情報発信。 ・大学教職員の理解・協力を得て、学科やゼミ、部署発の情報発信を強化。 	大学YouTubeチャンネル登録者数3倍増（476名/令和6年10月10日現在）。大学公式のInstagramフォロワー数（1,246名/同上）とXフォロワー数（1,274名/同上）の3倍増。

カテゴリー	中期的な目標	目標の説明 (取り組み内容)	達成指標
戦略的広報活動	リアルイベント（対面重視）による学園認知度等の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 跡見学園の学びや魅力を伝えることを目的に、広報室が主体となり、教職員の知見や協力を得て企画・実施する。 ・ 集客ではHPやSNSによる情報発信、メディアへの情報提供、外部の関係機関などに告知や参加協力を求める。 	<p>広報室主催のイベントを年2回開催。「ATOMI Blossom Hall」を活用した一般参加のイベントや、志願者増につながる生徒対象の事業などを実施。</p>
組織計画	ガバナンスの向上	<p>社会から求められ、信頼される学園であり続けるために、改正私立学校法や私立大学ガバナンス・コードを遵守しつつ、よりガバナンス機能を高めていく。</p>	<p>私立大学ガバナンス・コードの遵守。 会議体やその計画を有機的に管理・支援する仕組みの構築。</p>
組織計画	組織改編	<p>大学の学部の再編に係る定員規模縮小、キャンパス集約に関連し、必要な組織改編を行う。</p>	<p>大学の定員規模及び学部特性に合わせた組織の改編とDXの推進</p>

カテゴリー	中期的な目標	目標の説明 (取り組み内容)	達成指標
人事制度	職員人事評価制度の安定した運用の維持	制度の検証を引き続き実施することで公平で透明性のある、跡見学園独自の人事評価制度の構築を行う。	各機関評価の平準化および各部署における評価者と被評価者のコミュニケーションの促進。オンブズマンへの申し立てなし。
人事制度	組織間交流の推進と教職協働	組織、部署、教職員のコミュニケーションの活性化をはかり、チームATOMIとして一人ひとりの認識を深めることにより同一方向にベクトルを合わせ協働できる体制を構築する。	横断的な業務の遂行
人事制度	研修の充実	主に職員研修について、令和5年度までに構築した階層別研修の内容の充実をはかり、PDCAサイクルにそった運用をすることで職員力を向上させる。	階層別研修の実施および研修による成果を確認し、一人ひとりのキャリアに反映させる仕組みづくりをする。
人事制度	適正な人員配置の実現	大学の学部の再編に係る定員規模縮小、キャンパス集約、及び各学校の教職協働等に必要の人員配置の適正化を図る。	組織改編に伴う事務職員人事配置の適正化を図る。
人事制度	人事諸制度の見直し	大学の学部の再編に係る定員規模縮小変化、及びキャンパス集約化等に適合する人事諸制度の見直し、創出を図る。また人件費の適正管理を実現する人事諸制度の見直しを行い、持続可能な経営体制を確保する。	雇用制度の見直し及びその実現 人件費適正化の実現